

令和5年度 第3回富山市高齢者総合福祉プラン
(高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画) 策定懇話会 議事録

- 1 日時 令和6年1月17日(水) 午前10時00分～午前11時30分
- 2 場所 富山市役所8階大会議室
- 3 出席者 出席委員11名 欠席委員3名

【委員】高城委員(座長)、相山委員、麻島委員、石田委員、岩井委員、
高原委員、谷委員、松島委員、森田委員、菱田委員、吉浦委員
(欠席：稲村委員、大西委員、布日委員)

【事務局】酒井福祉保健部次長、片山福祉保健部次長、原保健所地域健康課長、
丸本保健所保健予防課長、中島介護保険課長、山本長寿福祉課長、
矢郷介護保険課課長代理、増田長寿福祉課主幹

4 次第

(1) 福祉保健部次長挨拶

(2) 議事

1. 富山市高齢者総合福祉プラン(案)について

5 質疑応答

委員	計画案はよくまとまっていると思うが、実際にこれを実効性のあるものにするために、このような理念で計画を作って進めていくということ、関係機関や市民の皆さんにもお伝えする方法は考えているのか。
事務局	いろいろな会議や講演会などの場面でお知らせしていくことが必要と感じるので、そうした場を今後探していきたい。
委員	能登半島地震について、被災地の方が非常にご苦労なさってらっしゃる。老人福祉施設協議会としても、12日から第一弾で2チームを組んで被災地の施設に派遣したが、非常に大変だったということを聞いている。 このタイミングでは難しいかもしれないが、災害への対応、防災対策を高齢者の分野に少しでも織り込んだ方がよいのではないか。防災対策課とも協議して、調整していただけたらと思う。
委員	能登半島地震で何が問題だったのかは検証中だと思うので、この計画では難しいと思うが、検証結果を今後に活かしてもらえればと思う。

委員	<p>計画を作ったらもうこれで終わりとなりかねないので、我々も懇話会の委員として、それぞれの立場で、目標に対して努力することが大切だと思う。当然、行政の力も必要となるが、連携して着実に向上させていくことが何よりも肝要ではないかと考えている。</p>
委員	<p>後フォローについて考えはあるか。</p>
事務局	<p>今回のプランについても、評価・進捗管理が大切であると考えている。他のプランのやり方や他都市のプランの検証方法など勉強しながら改善していきたい。</p>
委員	<p>今回委員に選ばれた 1 人として、地域に帰って、こういう素晴らしいプランがあるから、もう少し社会参加とか生きがいづくり等に関心を持ち、お互いに繋がりあって歳をとりましょと、皆さんに少しでも浸透させたい。健康寿命の延伸のために自分なりにいろいろなものに参加して、ボランティアというか貢献寿命の延伸ということに、お互いに少しでもそうした地域のためになることをやっていきたいと思いますと声掛けをした。</p>
委員	<p>本編の「情報化の推進」ということで、ホームページや広報を通じて情報を提供するという部分があるが、タイムリーに情報を目につくようにすることを考えると、やはりスマホを活用したようなやり方ができないか。もう少しスマホを活用したタイムリーな情報提供と、そのためのスマホの教育・研修等の項目も織り込んでいただければと思う。</p> <p>次に、「認知症徘徊ネットワークの推進」の中の「SOS 緊急ダイヤル」のツールとして、富山市が推進する「結ネット」という媒体を使うのはどうか。この「結ネット」は基本的に電子回覧をメインにスタートしているが、こういう媒体を使って高齢者の見守りとか、徘徊の情報をいち早くあげる、キャッチするというようなデジタルの活用も織り込んでいただければと思う。</p> <p>「ICT 活用認知症高齢者検索支援事業」の利用者数について、令和 5 年度目標量に対する進捗率が 16%となっているが、ICT の活用の度合いを上げていけば、こうした数字も上げていけるのではないか。</p> <p>それから「地域でのボランティア活動の推進」のところ、ボランティアによる「ふれあい・いきいきサロン」と「ふれあい・子育てサロン」と 2 つあるが、これにもう一つ、最近は「子ども食堂・地域食堂」というのが富山市でもこれからどんどん増加していく傾向にある。この「子ども食堂・地域食堂」は世代を超えた交流の場になっている。こうしたこれから増えていく地域食堂のような場についても、言及してもいいのではないか。</p> <p>それから「福祉教育の推進」にある「福祉の講師派遣事業」は非常に素晴らしいことだと思う。あと今、小学校や中学校はコミュニティスクールということで、地域が学校運営に参画できるというような仕組みになってきている。このコミュニティスクールを活用した地域と連携した福祉</p>

学習とか、地域と学校が一緒になって活動していく福祉活動といったことについても触れてもいいにではないか。

あと、先ほどもあったように、これを市民の皆さんに知って理解していただく方法について、地区・地域を代表される方を集めて、今の富山市の福祉のレベルと段階、これから力を入れていく部分を説明していただくと同時に、一方では地域に出向いて、市の福祉プランを周知していくという取り組みも大事だと思う。

事務局

まず情報化に関して、これは前回の会議で他の委員さんからもスマホ教育の推進を多くしてほしいという意見を賜っている。その次の「SOS 緊急ダイヤル」にも絡むが、いずれにしても結ネットをはじめ、デジタルをもっと活用して速く多くの人に一気に伝えるという、そういう社会を我々も目指しているところ。これは全庁を通じてやっていきたいと考えている。ただ「結ネット」等も含めて、システム関連については検討期間が必要であるため、どうしていくかはもう少しお時間をいただきたい。

ICT の活用について少し触れさせていただくと、認知症徘徊者発見へのセンサーネットワーク等の活用については、長期的に検討する課題としているが、様々な制約があってなかなか進んでいない。そういったものを見直し、新しいものに入替えながら変えていきたいという思いはある。

地域食堂に関しては、確かに近年、増加していると認識している。実際、包括をはじめ多くの地域で、高齢者だけではなく世代を超えたボランティア活動が多く見られ、抱える共通課題も連携されている。この辺も行政がどのように整理できるか、子ども家庭部とも連携しながら考えていきたい。

プランを浸透させる方法については、確かに出前講座のメニューの一つとして作って出向くことも一つだと思う。我々は市民の方とのミーティングで何カ所か周らせていただいているが、こうした場でも説明していくべきと思っている。

委員

地域食堂やコミュニティスクールについては、現在策定中である次期地域福祉計画で何がしか触れることができないか、連携を図っていただければと思う。

委員

こんな立派なプランを見せてもらい感謝している。先ほどの高原委員の意見のように、如何に市民の方々に知っていただくか、これがとても大事だと考える。

私ども民生委員の場合、活動強化のポイントは三つあり、一つ目が地域支援、二つ目が対人援助、三つ目が組織の強化。その中の対人援助については、今回の震災で私も夜通し避難所に行っていたが、1人の高齢の方への対応にも大変な思いをする3日間であったため、そういう具体的などころについて、いろんな政策を行政の方と一緒に作っていききたいと思う。

日常の中でのふれあいの場について、民児協としては、2月6日に南砺市の小規模多機能自治の地区協議会会長さんの説明を受けて、そこから入っていこうかなと思っている。

地域づくりの支援のメインは一番が住民。住民と共同して連帯感を持って活動するということが日常になれば、それが共生社会そのものの姿。そんなふうには持っていければと思う。そうした中で、この4~5年、地域の自治振興会・民生委員・体協・地区社協・消防の役員の間で距離を感じることもある。ぜひ行政の方でも平静からもっとお付き合いする場を、意識的に交流の場をつくっていただければ、少しずつ協力関係ができて、連帯感も生まれていくような気がする。そういう連帯感をつくっていくような項目を一つのテーマとして、「地域を支える多様な担い手の支援」に入れていただければありがたいと思う。

事務局

「地域を支える多様な担い手の支援」は、健康づくりと介護予防の推進の中の基本施策であるため、この中に入れるのは難しいと思うが、今の話は地域コミュニティ推進、コミュニティ再構築といったような、地域福祉の大きな枠の話かと思う。

事務局

いま地域コミュニティ推進という話があったが、これについては、今年度から市民生活部で、地域活動や防災活動も含めた補助金の制度を創設するなど、取り組んでいこうとしており、地域福祉計画の中にも「支え合う地域づくり」というコミュニティ醸成の項目もあるため、そういった中に何らかを織り込むことについて市民生活部とも協議したい。

委員

自治振興会の立場から言うと、人それぞれで、テーマを持っていても行動しない人がたくさんおられるので、その方々をどう引っ張り出すかということが問題かなと思っている。

民児協の方のお話にもあったが、具体的に課題のある方がおられれば、隣近所の方を巻き込んで何かあったら連絡をするというようなやり方でやってもらうように促しているし、民児協の会長さんが社会福祉協議会の副会長、長寿会の会長、副会長等の立場に入ったりして、なるべく話が浸透するようなやり方をしている。

テーマを設けて人を集めても、いつも同じメンバーしか集まらないという状況なので、どうしても参加しなきゃならないような理由づけをするようなやり方を工夫しなければいけないかなと思っている。

この計画が全ての市民に浸透していくために、関係部局のご協力を得て、自治振興会としてもやっていかないといけないと考えている。

委員

能登地震について、ニュースで被災地の市長さんが出ておられたが、あの裏で自治体の職員がとんでもなく苦勞してるのだろう、そしてこれは長い戦いになるのだろうという感想を持った。そして、避難所の中で高齢者たちを支えているのは地域への思いや、地域の繋がりなんだということが報道からも伝わってきた。そういう意味でも、私達老人クラブにも役割があり、町内会はやはり保たせなければならないという思いをもった。

計画については特に意見はないが、福祉教育について、いろんなことが出てくると、何でも学校に要請が入ってくるので、そのところは関係部署と連絡調整をしていただきたい。今、問題になってる教員の多忙化に繋

がる恐れがあると思う。

委員

非常に実態的に、富山市が目指すところが明確に示されている。富山市が何を目指していて、それにこのプランがどのように位置づけられていて実施されていくのかということが非常にわかりやすく、良いプランになっていると思った。また資料 3 では成果指標が具体的に出してあり、非常にわかりやすくしていただいている。非常に素晴らしいプランだと、私も富山市民の 1 人として嬉しいと思いながら見させていただいた。

そうした中で、計画の枠組みは、このように 3 年間進めていくということ具体的に整理してあり、わかりやすいと思っているが、この計画を進めていく上で一つ一つの事業を展開していくときに、参加される方、特に住民の皆さんが参加されるような場合には、「目的を明確にお伝えできる」ということが大きなポイントになると思う。

何かというと、「これをやることによって、こんないいことがある」とか、例えば介護予防についても「これをするによって、こうなる」とか、具体的にわかるということがとても大事だと思うので、参加することが目的というよりは「こうなる」というところを目指しながらやっていくということ。これがわかるように伝えと、非常に効果的なものとして事業が動くし、一つ一つの事業が効果を上げることによって計画の達成に向けてうまく進むのではないかと思う。

一つ提案だが、富山市で地域共生のモデル事業をされていたときの見開きのパンフレットが非常に温かで、住民の皆さんにも専門職が見てもわかりやすい内容になっていたと思う。今回のプランについても、相手がわかりやすいパンフレットや見開きのチラシでも結構なので、「参加者の皆さん方がこれをやることによって、全体がこんなふうに繋がっていて、こんなふうがいいことがある」というようなことが伝わるようなわかりやすいツールがあるといいと思った。

そしてもう一つ、表記で気になる点があったのでお伝えする。「介護者への支援」という表記。時代も変わって「介護者支援」が非常に重要視されてきている中で、この「介護者」の表記の中には、現場の専門職介護者の意味合いもあるという指摘が出てきている。おそらくこのプラン上で示されているのは「家族介護者」のことではないか。家族の介護者については、近年は「家族介護者」という表現に変わってきているので、この資料を出すときには「家族介護者」という表現を使った方がいいと思う。

事務局

「家族介護者」との表記について、今後、留意していきたい。また、事業を展開する際には、目的を明確にすることで計画の実行性が高まるというお話で、一例として地域共生事業のパンフレットを挙げていただいた。今後はいろんな事業をやる際に、単にスキームを書くだけでなく、そうしたものも増強していくのが大事だとしてご指摘として受け止めさせていただきたい。

- 委員 「おでかけ定期券」の利用時間が9時から17時までと決められているが何故なのか。朝早い方はもっと早く使われることもあると思う。その理由について、担当部署に訊いていただきたい。
- 何故そういうことを訊くかということ、たまに街に出てきて店に行こうとすると17時から開くということで、残念だったことがある。全時間使えるようになればと思う。
- 事務局（山本） 今、答えを持ちませんので持ち帰らせていただきたい。
- 委員（高城） 皆さんの意見を総合すると、計画自体は良いものになったというご評価をいただいている。しかし、これを画に描いた餅に終わらせないようにしてほしい、というのが皆さんの意見の総意だったように思うため、事務局の方でもこの計画が本当に実効性のあるものになるように、ご尽力をお願いしたい。
- また新たな視点として、スマホの活用が出てきたが、最近バスに乗ると、高齢者の方でもみんな「おでかけ定期」と併せてスマホもほとんどの人が持っておられる。これを福祉の分野でどう活かせるかということも今後の検討課題かと思った。
- 委員 今の話に関連して、各地区センターの中にWi-Fiが入っているが、実は使えない状況のところがある。その辺を確認してもらって、できるだけ早く使えるようにしていただきたいと思う。
- 委員 事務局の方で担当部局に確認していただきたい。
- 他に特になければ、今日お出しいただいた意見等も踏まえて、事務局の方でさらに改定するところは修正していただければと思う。
- 事務局 これまでにいただきましたご意見をもとに、高齢者総合福祉プランの最終案を策定委員会の方で取りまとめまして、審議会の委員会において説明を行い、計画を策定いたします。
- また、介護保険料につきましては、本市の介護保険条例の改正案を令和6年3月議会に提出する予定となっております。

(以上)